

平成4年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)

関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成3年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成5年9月1日、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験7剤、適用性試験29剤、生育調節剤は、作

用性2剤、適用性試験3剤であった。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成4年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除 草 剤

I. 小 麦

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. AKR-7012 水和 ・ジクロベニール……30% ・ジフルフェニカン……4%	「実・継」	一年生雑草全般	土 壌	播 種 後	20～25 g	全 土 壌 (砂土を除く)	全 域 (畑作, 水田裏作)		・効果の再確認.
				小麦2～3葉期			寒冷地以西(畑作, 水田裏作)		
		一年生広葉雑草					寒 地 (畑作)		
2. DPX-16 顆粒水和 ・チフェンスルフロメチル……75%	「実・継」	一年生広葉雑草およびスズメノテッポウ	茎 葉	小麦3葉～節間伸長前、スズメノテッポウ3～5葉期	0.5～1 g (1 gについては水量2.5～10 l)	全 土 壌 (砂土を除く)	寒冷地以西(畑作, 水田裏作)	1) 体系処理; 土壌処理剤との体系処理で使用する. 2) 単用処理の場合は0.75～1 gでの使用が望ましい.	・少量散布と処理時期について再検討. ・効果の再確認. ・地域拡大.
3. DPX-16 細粒 ・チフェンスルフロメチル……0.2%	「継」								・効果、薬害の再検討.

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
4. <u>Hoe-032</u> 顆粒水和 ・アミドスル フロン……20%	「実・継」	一年生広 葉雑草	茎 葉	小麦4葉 ～節間伸 長期	1.5～ 3 g	全 土 壌 (砂土を 除く)	温 暖 地 暖 地 (畑作, 水田裏作)	1) 体系処理; イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と の組合せで使用 する.	・効果の再確認. ・地域拡大. ・処理時期につ いて再検討.
5. <u>Hoe-113-S</u> フロアブル ・フェノキサ ブ ロップ-P- エチル ……75 g/l	「実・継」	一年生イ ネ科雑草 (但し, スズメノ カタビラ を除く)	茎 葉	スズメノ テッポウ 3～5葉 期	8～12ml	全 土 壌 (砂土を 除く)	温 暖 地 暖 地 (畑作, 水田裏作)	1) 体系処理; 広葉 雑草に有効な既 登録除草剤との 組合せで使用す る.	・効果の再確認. ・地域拡大.
6. <u>KUH-901</u> 乳 ・ベンチオカー ブ……50% ・リニュロン ……7.5 % ・ペンディメ タ リン……5 %	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	50～70 ml	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒 冷 地 温暖地東 部(畑作, 水田裏作)		・地域拡大. ・効果の再確認.
7. <u>KUH-901</u> 細粒 ・ベンチオカー ブ……8 % ・リニュロン ……0.8 % ・ペンディメ タ リン…1.2 %	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	400～ 500 g	全 土 壌 (砂土は 除く)	寒 冷 地 温暖地東 部(畑作, 水田裏作)		・効果の再確認. ・地域拡大.
8. NC-347 水和 ・成分未公開 ……46%	「継」								・効果, 薬害の 再検討.
9. PL-10 乳 ・ペンディメ タ リン……15% ・リニュロン ……10%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	40～60 ml ----- 50～80 ml	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒 冷 地 (畑作) 温 暖 地 暖 地 (畑作, 水田裏作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する. 2) ヤエムグラに効 果の劣る場合が ある.	・地域拡大.
10. PL-10細粒 ・ペンディメ タ リン…1.5 % ・リニュロン ……1.0 %	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	500～ 600 g	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒冷地以 西(畑作, 水田裏作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する. 2) ヤエムグラに効 果の劣る場合が ある.	・地域拡大.

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
11. プロジアミン フロアブル ・プロジアミン ………41%	「実」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	10 ～ 15 ml	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒 地 寒 冷 地 (畑作)	1) キク科には効果が劣る。	
12. RPJ-445 フロアブル ・ジフルフェニ カン …500 g/l	「実・継」	一年生広 葉雑草	茎 葉	小麦生育 初期, 広 葉雑草 2 ～ 4 葉期	1.5 ～ 2.5 ml	全 土 壌 (砂土を 除く)	寒 冷 地 温 暖 地 (畑作, 水田裏作)	1) 体系処理; イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と の組合せで使用 する。	・地域拡大。 ・適用土壌の拡 大。
						壤土～ 埴土	暖 地 (水田裏 作)		
13. RSH-44① 粒 ・ジフルフェニ カン…0.15% ・トリフルラリ ン………2%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	400 ～ 600 g	壤土～ 埴土	寒冷地以 西(畑作, 水田裏作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねい に行つて均一に散 布する。	・地域拡大。 ・効果の再検討。 ・適用土壌の拡 大。
14. SSH-125 S フロアブル ・既知化合物 A ………150 g/l ・既知化合物 B ………25 g/l	「継」								・効果, 薬害の 再検討。
15. SSH-130 粒 ・トリフルラリ ン………1.25% ・ペンディメタ リン…1.25%	「継」								・効果, 薬害の 再検討。
16. ANK-553 細粒 ・ペンディメタ リン………2%	「実・継」 (前回通り)	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	600 g	全 土 壌	寒 地 (畑作)	1) 砕土, 整地, 覆 土をていねい に行つて均一に散 布する。	・薬量減による 効果の変動を 再検討する。
					500 ～ 600 g	壤土～ 埴土	寒 冷 地 (畑作) 温暖地以 西(水田 裏作)		

II. 大 麦

薬 剂 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1. AKR-7012 水和 ・ジクロベニール……30% ・ジフルフェニカン……4%	「実・継」	一年生雑草全般	土 壌	播 種 後 麦 2 ～ 3 葉期	20～25 g	壤土～ 埴土	寒冷地以西(畑作、 水田裏作)	1) 対象; 二条大麦、 六条大麦、裸麦。 ・効果の再確認。 ・適用土壌の拡大。
2. DPX-16 顆粒水和 ・チフェンスル フロメチル ……75%	「実・継」	一年生広葉雑草およびスズメノテッポウ	茎 葉	大麦3葉～節間伸長前、スズメノテッポウ3～5葉期まで(但し、暖地は大麦4葉期～節間伸長前、スズメノテッポウ4～5葉期)	0.5～ 1 g	全 土 壌 (砂土を除く)	寒冷地以西(畑作、 水田裏作)	1) 対象; 二条大麦、 六条大麦、裸麦。 2) 体系処理; 土壌 処理剤との体系 処理で使用する。 3) 単用の場合は 0.75～1 g での 使用が望ましい。
3. DPX-16 細粒 ・チフェンスル フロメチル ……0.2%	「継」							・効果、薬害の 再検討。
4. Hoe-032 顆粒水和 ・アミドスル フロメチル……20%	「実・継」	一年生広葉雑草	茎 葉	小麦4葉期～節間伸長期	1.5～ 3 g	全 土 壌 (砂土を除く)	温 暖 地 (畑地、 水田裏作)	1) 体系処理; イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と の組合せで使用 する。 ・地域拡大。 ・処理時期につ いて再検討。
5. KUH-901 乳 ・ベンチオカー ブ……50% ・リニュロン ……7.5% ・ペンディメタ リン……5%	「継」							・効果、薬害の 再検討。

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
6. KUH-901 細粒 ・ベンチオカー ブ……8% ・リニュロン ……1.2% ・ペンディメタ リン…0.8%	「継」								・効果、薬害の 再検討。
7. Mon-8794 液 ・グリホサート ……20%	「実」	一年生雑 草全般	茎 葉	耕起前7 ～14日	30～50 ml (水量 2.5～5 l) ---	全 土 壌	寒冷地以 西(畑作, 水田裏作)	1) 少量散布の場合 は専用ノズルを 使用する。 2) 周辺作物に飛散 しないように注 意する。	
8. PL-10 乳 ・ペンディメタ リン……15% ・リニュロン ……10%	「実」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	50～80 ml	全 土 壌 (砂土を 除く)	温暖地、 暖地(畑 作、水田 裏作)	1) 対象; 二条大麦, 六条大麦, 裸麦。 2) 碎土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。 3) ヤエムグラに効 果が劣ることが ある。	
9. PL-10 細粒 ・ペンディメタ リン…1.5% ・リニュロン ……1.0%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	500～ 600 g	全 土 壌 (砂土を 除く)	温暖地、 暖地(畑 作、水田 裏作)	1) 対象; 二条大麦, 六条大麦, 裸麦。 2) 碎土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。 3) ヤエムグラに効 果が劣ることが ある。	・効果の再確認。
10. RNC-61' 水和 ・ジフルフェニ カン……10% ・CAT…20%	「継」								・効果、薬害の 再検討。
11. RSH-44④ 粒 ・ジフルフェニ カン…0.15% ・トリフルラリ ン……2%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	400～ 600 g	壤 土	温暖地東 部	1) 対象; 二条大麦, 六条大麦, 裸麦。 2) 碎土, 整地, 覆 土をていねいに 行って均一に散 布する。	・地域拡大。 ・効果の再確認。 ・適用土壌の拡 大。

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	
12. SSH-130 粒 ・トリフルラリン……1.25% ・ペンディメタリン…1.25%	「継」							・効果、葉害の再検討。

Ⅲ. な た ね

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	
1. NP-55 乳 ・セトキシジム ……20%	「継」							・効果、葉害の再検討。

Ⅳ. い ぐ さ

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	
1. Hoe-171-S 乳 ・フェノキサプロップ-P-エチル…6%	「実・継」	一年生イネ科雑草（但し、スズメノカタビラは除く）	茎 葉	いぐさ刈後イネ科雑草5葉まで	5~10m/l	全 土 壌（砂土を除く）	温暖地西部以西	1) 落水処理とする。 2) 広葉雑草に有効な剤との体系処理で使用する。 ・使用量の軽減の検討。

B. 生育調節剤

I. 小 麦

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		対象作物的	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	
1. KUH-833 F [®] フロアブル ・プロヘキサジオンCa ……5%	「実・継」	小 麦 茎稈の伸長抑制による倒伏軽減効果	茎 葉	出穂前5~10日	15m/l	全 土 壌	寒冷地以西	1) 使用時期を厳守する。 ・地域拡大。 ・薬量について再検討。
2. CCC 液 ・クロルメコト ……46%	「実」(前回通り)	小麦(春播) 茎稈の伸長抑制	茎 葉	6葉期前後(草丈30~40cm)	20m/l		寒 地	

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		対象作物 目 的	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	
2. CCC 液 (つづき)		小麦(秋 播) 茎稈の伸 長抑制		出穂前20 ～10日 (草丈約 40～60cm)	50m/ (水量10 ～12l)			
				出穂前40 ～20日 (節間伸 長開始期 ～第2節 出現期)	30～50 m/ (水量10 ～12l)		寒冷地以 西	

I. 大 麦

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
		対象作物 目 的	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	
1. KUH-833 F00 フロアブル ・プロヘキサジ オンCa.5%	「実・継」	大 麦 茎稈の伸 長抑制に よる倒伏 軽減効果	茎 葉	出穂前5 ～10日	15m/	全 土 壌	寒冷地以 西	1) 対象: 二条大麦, 六条大麦. ・効果の再確認. ・裸麦への適用 について再検 討. ・薬量について 再検討.

新刊 山野草・樹木生態図鑑

シダ類・裸子植物・被子植物(離弁花)編 監修/沼田真
編者/浅野貞夫・桑原義晴

B5判・664頁・オールカラー・定価25,000円(本体24,272円)

北海道から沖縄まで日本列島に生育するシダ植物、山野草、雑草、帰化植物、樹木について、カラー写真 2,655点、図版 830点をつかい、生活型、個々の種の特徴や類似植物との区別点などを追究

姉妹編 沼田真・吉沢長人/編集

日本原色雑草図鑑

B5判/414頁(カラー1,020点)

定価10,094円(本体9,800円)

全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6(植調会館)

〒110 TEL.03-3833-1821(代)

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03)3832-4188(代)

平成5年11月発行

定価412円(送料250円)

植調第27巻第8号

(本体400円,消費税12円)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 櫛 渕 欽 也

発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 広 田 伸 七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所

電話 東京(03)3833-1821番(代)

印刷所 新 成 印 刷 機